

# 安楽温泉

【秋田県由利本荘市】

昔から地元で  
親しまれる

由利本荘市の市街地の一角で住宅街の中に紛れるようにたたずむ安楽温泉は、昔は「タンペハン」と呼ばれて、何かあると地域の人たちが寄り集まる集会場のような役割を果たしていたという。「タンペハン」という変わった呼び名は、安楽温泉の開祖である志村丹平という人物の名に由来するらしい。丹平は灌漑用水や圃場の整備を手がけ、地域の人々にも慕われる存在であったようだ。

その丹平が現在の地で冷泉を発見して安楽温泉を開いたのが明治43年。そして大正5年からは現在まで続く工藤家が経営を引き継いでいる。

現在の安楽温泉が、遠方からの観光客や温泉ファンに幅広く利用されるというよりもむしろ地元の人たちの結婚式場や会合会食の場





ロビー



として大いに盛業なのは、「タンペン」のころからの伝統なのかもしれない。そんな安楽温泉だが、去年から今年にかけて大きく様変わりした。築60年を経て老朽化していた宿泊棟を建て替えて現代感覚を盛り込んだ客室をつくり、新源泉を掘削してこれまでとは違う強食塩泉（ナトリウム―塩化物強塩泉）の湧出も見た。魅力的な温泉宿が一軒新規に開業したようなものである。

## 食塩泉と地魚料理が楽しみ

もともと安楽温泉は地元では料理が評判で、そのためにここで結婚披露宴を開いたり会合を設けたりするお客が多かったほどだから、新しくなったばかりの客室に泊まり、気持ちのいい湯に入り、おいしい料理も食べられる……

かも料金はリーズナブルとくれば、地域外からも出かけたくなるというもの。

今春新築になったばかりの宿泊棟は全13室。畳敷きにツインベッドを配した和洋室タイプが中心で、3室には十分な広さの温泉浴室がつく。

部屋付き浴室も大浴場も、湯量豊富で源泉掛け流しの強食塩泉。湯温はおおむね43℃という高めの設定。ぬるめの湯が好きな人は浴室付きの部屋をチョイスして好みの湯温に入れていただろう。館内に大きな段差はなく、所要所にはスロープも設けられていて、高齢者や車イスでの利用にも配慮されているようだ。

新しい宿泊棟は中庭を建物が囲むパティオ風



客室は畳にベッドという和洋室タイプが基本



13室中3室には十分な広さの温泉浴室がついている





大浴場には昨年湧出した強食塩泉の湯が張られる

大浴場の外には見事な竹林

大浴場に続く露天風呂も今回のリニューアルであつたらえたもの

## 新規開業に匹敵する 穴場宿

魚介を中心にした料理が宿の自慢。社長の工藤崇雄さんが自ら買い付けるという地魚は、メバル、ソイ、タコ、ヒラメ、スズキ、ハタハタ、アンコウと、季節ごとに旬の魚が出される。魚が好きならであれば、季節ごとに出かけていっても満足できるのではないだろうか。

安楽温泉は昨年の震災時に被災者を受け入れた。その務めを果たしたゴールデンウィーク過ぎから宿泊棟の建て替えに取り掛かり、真新しい客室で営業を再開したのが今年のゴールデンウィーク直前。同時に、従来は含鉄泉を加熱して湯船に注いでいたが、昨年5月に湧き出し口で49℃という高温の強食塩泉の掘削に成功し、泉質そのものも入れ替わった。老舗の温泉宿でありながら、趣が一新したのである。料理も含めて、この宿の魅力はまだあまり知れ渡っていない。その意味では、ちよつと「穴場的」な楽しみ方のできる宿でもある。

(文・写真)かとう・りゅうえつ 秋田市

# 安楽温泉

ANRAKU O N S E N

〒015-0868

秋田県由利本荘市大堤下4

TEL.0184-22-0637

FAX.0184-22-0639

<http://www.anrakuonsen.com/>

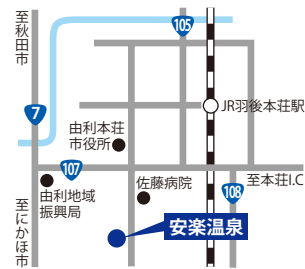
お一人様(1泊2食付き) **8,000円**~  
(税・サ込)

※この他にも、各種プランがございます。  
詳しくはHPをご覧ください。

## 【施設のご案内】

- 客室13室(部屋温泉付3室)60名様収容
- 男女大浴場(各露天風呂)
- 宴会場(大宴会場・中宴会場・小宴会場)4
- コンベンションホール(250名様収容)
- 駐車場80台(大型バス駐車可)
- レストランすぎの木

## 【地図】



住宅街にありながら閑静なたたずまいの安楽温泉。右奥が宿泊棟



お造りはボタンエビやヒラメなど



ズワイガニ



安楽温泉の名物料理・鮭の蕎麦蒸し



由利牛ヒレスステーキ



タコのしゃぶしゃぶ



サザエとツブ貝の壺焼き



テリ(メバル)の煮付け